

# YOUNG DERBY



第11回

# ヤングダービー

関浩哉VS羽野直也!? それとも第3の選手か?



VS



VS



秋の大レース第二弾は、若手のトップを決めるヤングダービーだ。下馬評では、今年卒業する羽野直也と関浩哉が断然のツートップ。しかしその両雄を攻略して初の王座を狙う、第三の選手への出現も十分ありそう。標高が高くエンジン調整力が問われる桐生で、頂点を極める戦いが繰り広げられる。

9/18(水)▼23(月)祝

ボートレース桐生



第5回ヤングダービーを制した関浩哉



第8回を大本命で優勝した羽野直也

# V2を狙う関浩哉と羽野直也 続く候補はEY&WY覇者 近況トップで勢い◎の入海馨



イースタンヤングを快勝、絶好調の豊田健士郎

**関浩哉はYDの申し子!!**  
114期最年少の羽野直也と115期の関浩哉は、今年が最後のヤングダービー(以下YD)となる。ともに既に制覇歴があり、もし今回優勝を飾れば、このタイトル初の2回目の優勝歴を残すことができる。そしてこの両者の比較は全く甲乙つけ難い。  
6年前の第5回で早くも優勝を飾ったのが関。これがデビュー初優勝でもあった。そしてこの6年間で4回の優出を重ねている。まさに『YDの申し子』というアドバンテージもある。

総合的な実績でいえば全選手中でも断トツなのが羽野。何しろ既にSG1回、GIでは4回の優勝歴がある。このタイトルも6年間で3回の優出歴、そして第8回を圧勝している。桐生は3年ぶりとなるが、前回はGI(21年の65周年)で3勝しており、大きな不安点にはならないだろう。

**層が厚い愛知・佐賀勢も**  
この両者に続くのは、順当ならば、トライアルのイースタン(EY)&ウエスタンヤング(WY)を制した豊田健士郎と新開航だ。豊田は、5月からの新期だけで7優出5優勝と絶好調。EY優勝に続いて7月のボートレース甲子園(GII)でも優出。このYDでも第6回で準優勝の実績があり、タイトル目前と期待が高まる。  
一昨年に最多勝を飾ってブレークをした新開は、昨秋にGI初優勝。YDでは昨年初優出している。WYは昨年に続き、今年は豪快無比な大外まくりで連覇を果たした。



ウエスタンヤングは大技で制した新開航

表1-1 ヤングダービー・第5回以降の優勝戦結果

\*赤字は今回の出場予定選手

回	年	開催場	1着	コース	2着	コース	3着	コース	4着	コース	5着	コース	6着	コース	3連単	配当	決まり手
5	2018	浜名湖	関 浩哉	1	松尾 充	2	安河内 将	4	羽野 直也	5	木下 翔太	3	大山 千広	6	①②⑥	2270円	逃げ
6	2019	三国	永井 彪也	1	豊田健士郎	4	福田 宗平	2	村岡 賢人	3	宮之原輝紀	5	今泉 友吾	6	①④②	1840円	逃げ
7	2020	びわこ	磯部 誠	2	木下 翔太	3	上田 龍星	1	関 浩哉	4	井上 一輝	6	春園 功太	5	②③①	5850円	差し
8	2021	徳山	羽野 直也	1	関 浩哉	2	中田 達也	5	下寺 秀和	4	入海 馨	6	妻鳥 晋也	3	①②⑤	740円	逃げ
9	2022	多摩川	近江 翔吾	1	上條 暢嵩	5	仲谷 颯仁	6	羽野 直也	4	中村 日向	2	末永 和也	3	①⑤⑥	3790円	逃げ
10	2023	下関	上條 暢嵩	2	関 浩哉	5	入海 馨	1	小池 修平	3	松山 将吾	6	新開 航	4	②⑤①	19560円	まくり

表1-2 第11回イースタン&ウエスタンヤングの優勝戦結果

回	レース	開催場	1着	コース	2着	コース	3着	コース	4着	コース	5着	コース	6着	コース	3連単	配当	決まり手
11	EY	びわこ	豊田健士郎	1	関 浩哉	4	澤田 尚也	5	前田 翔	6	藤田 俊祐	2	前田 篤哉	3	①④⑤	1190円	逃げ
11	WY	唐津	新開 航	6	末永 和也	3	安河内 健	1	定松 勇樹	2	井本 昌也	4	山崎 鉄平	5	⑥③①	15690円	まくり

# YOUNG DERBY

表2 第11回ヤングダービー 出場選手選出順位表及び近況の成績

出場 順位	登番	選手名	支部	選考 勝率	近況成績(2024/5/1~8/20)				
					勝率	F	優出	優勝	近況
EY優勝	4856	豊田健士郎	三重	6.92	7.49	0	7	5	↑
WY優勝	4932	新開航	福岡	6.84	7.21	0	5	2	↗
3	4939	宮之原輝紀	東京	7.57	6.43	0	2	1	↘
4	4907	小池修平	大阪	7.49	7.07	2	6	0	↘
5	4831	羽野直也	福岡	7.48	7.20	0	1	0	→
6	5121	定松勇樹	佐賀	7.35	7.19	0	5	3	→
7	4851	関浩哉	群馬	7.20	7.24	0	4	1	→
8	4980	佐々木完太	山口	7.19	6.32	1	3	1	↘
9	5084	末永和也	佐賀	7.07	7.15	0	3	1	→
10	4959	井上忠政	大阪	7.03	7.11	0	5	3	↗
11	4961	西橋奈未	福井	6.94	6.10	0	3	0	↘
12	4850	野中一平	愛知	6.88	6.39	1	2	0	↘
13	4914	吉田裕平	愛知	6.81	7.66	0	4	2	↑
14	5051	松本純平	埼玉	6.79	6.98	0	3	0	↗
15	4886	入海馨	岡山	6.77	7.68	0	5	3	↑
16	5042	畑田汰一	埼玉	6.71	5.99	0	1	0	↘
17	4983	前田篤哉	愛知	6.69	6.07	0	3	0	↘
18	4933	板橋侑我	静岡	6.66	5.57	1	0	0	↓
19	4960	黒野元基	愛知	6.63	7.04	0	5	1	↗
20	4989	石原翼	静岡	6.52	5.32	1	0	0	↓
21	5016	宮田龍馬	兵庫	6.50	5.98	1	2	0	↘
22	5026	安河内健	佐賀	6.48	7.13	1	4	1	↗
23	5075	中島秀治	滋賀	6.47	7.10	0	3	0	↗
24	5141	大澤風葵	群馬	6.47	7.15	1	4	0	↗
25	5136	濱野斗馬	香川	6.46	6.31	0	3	1	→
26	5017	澤田尚也	滋賀	6.41	7.06	0	3	0	↗
27	5142	常住蓮	佐賀	6.39	6.68	1	1	0	→
28	5038	金田智博	福井	6.38	6.03	0	3	0	↘
29	4985	井本昌也	山口	6.37	6.30	0	4	0	→
30	4852	川原祐明	香川	6.33	6.08	0	0	0	↘
31	4958	溝口海義也	福岡	6.29	6.38	0	1	0	→
32	5029	中亮太	福岡	6.28	5.56	0	1	0	↓
33	5043	中村日向	香川	6.24	6.04	1	2	0	↘
34	5058	前原大道	岡山	6.21	6.21	1	1	0	→
35	4746	大豆生田蒼	埼玉	6.20	5.55	0	0	0	↓
36	4934	佐々木翔斗	大阪	6.18	5.58	0	1	0	↘
37	4877	鈴谷一平	兵庫	6.18	5.89	1	1	0	↘
38	5217	藤原碧生	岡山	6.16	6.47	1	4	2	↗
39	4953	尾上雅也	埼玉	6.13	6.22	0	3	0	↗
40	5034	若林義人	静岡	6.13	6.68	0	2	0	↗
41	5015	高橋竜矢	広島	6.13	6.26	0	2	1	→
42	5226	藤田俊祐	東京	6.12	6.33	1	1	0	→
43	5112	砂長知輝	埼玉	6.11	5.99	1	1	1	→
44	5037	田頭虎親	香川	6.00	6.01	1	2	0	→
45	4963	實森美祐	広島	5.97	6.76	0	3	0	↗
46	5166	仲道大輔	愛知	5.95	5.70	2	2	0	↘
47	5056	西岡成美	徳島	5.95	5.19	0	0	0	↓
48	5191	飛田江己	埼玉	5.94	6.45	0	0	0	↗
49	5091	為本智也	福井	5.93	5.51	1	1	0	↘
50	5005	石田貴洋	埼玉	5.90	5.55	0	1	1	→
51	4991	宗行治哉	広島	5.87	5.96	0	2	0	→
52	5221	竹間隆晟	大阪	5.82	5.73	2	2	0	↘
予備1	4931	木谷賢太	香川	5.82					
予備2	5018	竹下大樹	福岡	5.82					
予備3	5045	平川香織	埼玉	5.79					

\*赤字は今年が卒業年の選手  
(成績対象期間：2023/7/1～2024/6/30)

末永和也は日増しに安定感を身につけている 風格さえ感じさせる？ 23歳の定松勇樹



23歳にしてオールスターで早くもSG覇者に輝いた定松勇樹は、年末に向けて賞金の上積みを図る。この定松に続き、既に九州チャンプの勲章がある末永和也、WYでは1号艇で優出した安河内健、さらに常住蓮と、佐賀勢の層は厚い。

愛知勢もV圏内で粒揃いだ。昨年のダービーでの大健闘が思い出される吉田裕平の新时期勝率はトップクラス。黒野元基も近況好調な上に桐生実績がある。スタート一発を秘める野中一平、前田3兄弟の長兄・篤哉もしぶとい。

さらにもうひとり注目を集めるのが、8月6日に若屋72周年で初GIを手にした入海馨だ。YDとは好相性で、第8回でGI初優出。昨年は1号艇で優出しながら涙をのんだが、今年はリベンジを誓う。

129期トリオが大暴れ!?

出場順位が下位でも、波乱劇や好配当の使者になってくれそうな候補も何人か挙げておきたい。

まずは地元の大澤風葵だ。一時スランプに陥りA2級に降格していたが、近況は復調気配。お盆開催のFは残念だったが、その後の走りからは影響なさそう。

中島秀治と澤田尚也の滋賀コンビはともに新时期7点オーバー。びわこ開催のEYでは優出③だった澤田への期待は特に大きい。

今回の出場選手で最も期が若いのは129期生で、この期からは藤原碧生・藤田俊祐・竹間隆晟の3人が出場。ルーキーに詳しいファンには既に名前が売れてきているが、全国ファンへ向けてさらに強烈に売り込んでほしい。

昨年は1号艇で優出、新GI覇者の入海馨 そろそろタイトルが欲しい吉田裕平





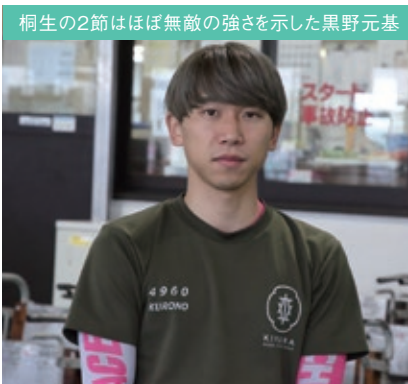
# 日本一調整が難しい!?

## 桐生水面で要注意は

### 関東&東海勢!!



昨年12月の当地開催では圧勝した板橋侑我



桐生の2節はほぼ無敵の強さを示した黒野元基

桐生は全国24場の中で最も標高が高く、気圧が低いのでエンジンの回転がなかなか上がらず、調整が難しいという声が聞かれる。さらに東端にあるため、どうしてもあっせんされる選手は東日本の選手が多い。さらにコロナの流行期間中は近隣地区優先のあっせんが続いたので、西日本の選手が走る機会が少なめだった。

左の表3は最近3年間の勝率上位選手だが、出走回数も一応参考にしていただきたい。2節以上走って好走歴が続いた選手には、関東・東海地区の選手が多い。

表3 最近3年の桐生勝率・上位20選手

順位	選手	勝率	出走回数	優出	優勝
1	黒野 元基	8.44	18	2	1
2	西橋 奈未	8.00	9	0	0
3	板橋 侑我	7.67	18	1	1
4	宮之原輝紀	7.61	44	4	2
5	中村 日向	7.55	20	1	0
6	羽野 直也	7.50	8	0	0
7	小池 修平	7.25	12	0	0
8	関 浩哉	7.07	81	4	1
9	前田 篤哉	7.00	10	1	0
10	藤原 碧生	6.90	10	1	0
11	入海 馨	6.70	27	1	0
12	中 亮太	6.69	35	2	1
13	豊田健士郎	6.57	28	1	0
14	末永 和也	6.56	9	1	0
15	澤田 尚也	6.38	8	0	0
16	大澤 風葵	6.23	155	2	0
17	常住 蓮	6.20	10	1	0
18	砂長 知輝	6.17	29	1	0
19	松本 純平	6.15	46	0	0
20	大豆生田蒼	6.06	16	1	0

最大の注目は宮之原輝紀で、周年2節を含む5節で4回優出。その中には65周年での優出、GⅢ企業杯での優勝を含む。非常に中身の濃い戦歴といえるだろう。

勝率トップの黒野元基は2節だけではあるが、3連対を外したのは各1走ずつだけ。優勝と準優勝でまとめている。板橋侑我也昨年12月の開催では、中堅機ながらオールド3連対で圧勝した。

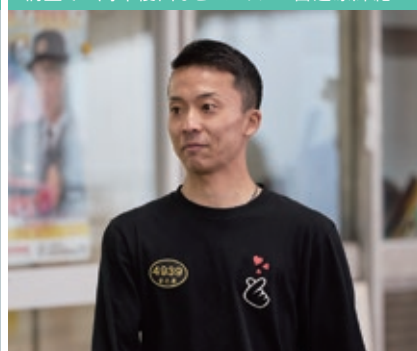
地元の2人は、もちろん出走回数も飛び抜けて多く、とくに関浩哉は5月以降、毎月走っている。今回使うエンジンの特徴や相場なども熟知しているはずだ。

遠征勢でマークしておきたいのは中村日向と中亮太か。その一方で、当地を3年以上走っていない選手が8人もいる。そのうち7人までが四国以西の選手で、デビュー以来一度も走ったことがない選手も2人含まれる。有力どころでは、ドリームメンバーの佐々木完太や安河内健、さらに最近売り出し中の濱野斗馬らの名前も見え

誰よりも当地を走る機会が多かった大澤風葵



桐生では周年優出などピカイチの宮之原輝紀



る。中には調整に手間取る選手が出てくるかもしれない。

## 注目モーターを丸裸に!!

<b>64</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>50</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>32</b> 号機	評価 <b>A</b>	<b>68</b> 号機	評価 <b>S</b>	<b>51</b> 号機	評価 <b>S</b>
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
<b>43.2%</b>	<b>↑</b>	<b>44.1%</b>	<b>↗</b>	<b>38.3%</b>	<b>↗</b>	<b>47.6%</b>	<b>↑</b>	<b>47.2%</b>	<b>↗</b>
<p>最多タイの6優出をマークし、7月のALで松本晶恵が準優勝。近況の清水攻二、崎利人も足重視で好結果。</p>		<p>5月に島川海輝V、翌節の飯山泰は伸び型でトップ級。お盆開催の石井孝之も好気配で節間3勝、2着2回。</p>		<p>乗り手を選ばずに出る特注機。8月の河野主樹は節1、2を争う足で、お盆開催の橋本久和も着をまとめた。</p>		<p>2連対率No.1。6月のヴィーナスSで福岡泉水が超抜V、お盆開催の金子賢志は伸び寄りの仕上がりでV。</p>		<p>勝率6.29はトップの数字。6月以降は下降線だったが、お盆開催で久田敏之の手が入って息を吹き返した。</p>	
<b>60</b> 号機	評価 <b>B+</b>	<b>36</b> 号機	評価 <b>B+</b>	<b>31</b> 号機	評価 <b>B+</b>	<b>22</b> 号機	評価 <b>B+</b>	<b>72</b> 号機	評価 <b>A</b>
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
<b>47.5%</b>	<b>↗</b>	<b>36.4%</b>	<b>↗</b>	<b>34.7%</b>	<b>→</b>	<b>41.5%</b>	<b>→</b>	<b>42.3%</b>	<b>↗</b>
<p>GW開催から実戦足良好。7月に転覆でシャフトを交換したが、その後も鎌倉涼、後藤浩、柴田光が好脚。</p>		<p>4月に山口達也V、翌々節に原加央理がデビュー初V。8月の松尾充は伸び寄りの足で「節イチだと思う」。</p>		<p>5月に山崎郡が扱って一変した。6月のヴィーナスSで勝浦真帆が節間5勝、7月の大池佑来は出足が強力。</p>		<p>春に急上昇し、5月に上條暢嵩がオール3連対V。女子戦で浜田亜理沙が上位級、片岡恵里は実戦足が抜群。</p>		<p>68号機と並び、最多タイの3V。有力機がそろった7月のAL、優勝した渡邊優美は好バランスで節イチ。</p>	



### 久田敏之が太鼓判を押しした51号機と福岡泉水が優勝した68号機がWエース

現モーターは昨年末、12月28日の開催から使用されている(※現ボート初使用の節は昨年11月22日)。約9か月経過し、相場はほぼ固まっている。絶対的なエース機はなく、有力機が上位グループにひとかたまりの感じではあるが、Sランクをつけるなら51号機、68号機になる。

51号機は初おろしから上位へ中上級を推移。4、5月にピークを迎え、その後は落ち気味だったが、GW開催の久田敏之は「半年も割っていない機だから」と本体を総チェックし、メンテナンス後は気配が上昇。予選3位、優勝戦3着の久田は「秋からは絶対に出る機だ」という太鼓判を押しした。

初めて。選手になってから1番。ダントツです」と絶賛していたが、同機は以前から有力モーターの一つだった。2月に渡部悟が強烈な足でオール3連対V、GW開催で若手の塚越海斗も出ていた。最近ではお盆開催で予選1位、最終的に優勝した金子賢志が、リップサーピス込み!? で「僕がこの成績なので、68号機がエースでいいんじゃないかな」と話していた。

上位10機には入らなかったが、お盆開催で土屋智則が「欠点のない機。周年でも引きたい」と評価した52号機、近況上昇中の75号機も注目したい。なお、今回の桐生では部品交換を制限しない予定。現エンジンでセット交換をした選手は多数いるが、尼崎グラチャンのように舟足が大きく変わった例はほとんどない。

(スポーツ報知・佐々木 伸)